「日本百名山完登の記」

1. はじめに

標高三千メートルの山頂で快晴、無風、心地よい気温と三拍子そろうことは本当に稀有なことだ。しかも、日本百名山の百座目の山・北アルプスの盟主・槍が岳の穂先の岩稜（3180m）に立っている。一生涯に数回しか出合うことがないほどの素晴らし気象条件であると言っても過言ではない。

シルバーウイークを利用した二泊三日の日本百名山の最後の山行は、天も諸手を挙げて歓迎してくれた。

2. ルート/コースタイム

21 日：木津（5：00）～京奈和/名神/北陸自動車～R471/R475~平湯～新穂高温泉（10：00）～新穂高温泉登山口（10：50）～穂高平小屋（11：45/12：00）～奥穂高登山口（12：45）～滝谷出会（14：35）～槍平小屋（15：57）

22 日：起床（4：30）～小屋発（5：15）～千丈乗越分岐（7：30）～飛騨乗越（9：15/9：50）～槍が岳小屋（10：10/11：00）～鉾先頂上（11：30/12：00）～小屋（12：30）

23 日：起床（4：30）～出発（5：30）～千丈乗越（6：25）～分岐（6：45/7：00）～槍平小屋（8：15/9：30）～滝谷出会（9：12/9：20）～白出沢出会（10：20/10：40）～温泉（12：20）

4.百座目の槍が岳

（1）9 月 21 日（2015 年）

三年前に九十九座目の日高山系の幌尻岳に登ってから随分時間が経った。百座目だから、何かの節目になるタイミングで登りたいと思っていた。何も急ぐことはない。山に行けなくなるまでに百名山は登れるという余裕はあった。

しかし、百名山の初登は大峰山系の八経ケ岳で一年生の秋の文化祭の時の登山であった。あれから時は流れて 59 年が過る。

日本には還暦、喜寿、卒壽・・・人生の目出度い節目がある。これにあやかろうと三年待つこととした。そして、今年 6 月にめでたく喜寿（満七十七歳）を迎えた。出来れば、シルバーウイーク

の連休にタイミングを合わせることにした。

メンバーは気の置けない奈良山岳会の山仲間、IKE さん,Taka さん,Miya さん,Ishi さん,Koba さん,Suzu さん(会員外）六名と私 Kiyo さん（Ya さんは都合で急遽取止）だ。

21 日の出発は木津午前 5 時と早い。遠方の二人に今回参加出来なかった二人（Ito さん、Ya さん）も加わり五名で前前夜祭を祝い私宅で鉄板を囲んだ。いつもなら夜の遅くまで盃を重ねるところだが明日の予定もあり早々に就寝する。実は、数日前に睡眠不足に無理がたたり二日前から少し体調を崩し一抹の不安があった。寝る前の検温では 37 度 3 分の微熱であったが、翌朝は気だるさもなくほぼ平熱にもどり何とか大丈夫と判断して出発とした。

名古屋組（Koba,さん Suzu さん）二人は目的地の新穂高温泉まで別行動の予定で一足先に出発。奈良組五名は木津に集合して予定の時刻 5 時に出発。Taka さんのゆったりしたワゴン車で順調に進むが平湯あたりで、先発の Koba さんから緊急の電話がはいる。

五連休で登山者の車が一杯で、駐車場の空き待ちの車が数百メートル列をなし何時間の待ちになるか予断を許さないとのこと。

とにかく、合流して対応策を考えることで急ぐ。出発の出鼻を挫かれることだけは避けたいと、いろいろ対策を考えながら走る。合流すると検討していた最善の案の朗報が待っていた。交渉ベテランの名古屋組のお二人が道路脇の日帰り温泉宿に交渉して、下山後ここで入浴して食事を摂ると言う条件で三日間無料で駐車させてもらう話をつけてくれていた。それも、そこから新穂高温泉の登山口まで車で送り迎えしてくれるという願ってもない朗報であった。

予定通りの 11 時に出発。単調な林道を白出沢出会いまで進み枯れた沢を渡ったところから本格的な登山道となる。出発前日のの不調が影響しているのか、加齢による体力衰退か、とにかくスピードが上がらない。グループより遅れ気味のマイペースで進む。最後尾を若い Ishi さんが私に歩調を合わせて歩いてくれるのが嬉しい。滝谷避難小屋を確認したが、滝谷出会い付近にある「藤木レリーフ」を気付かずに通過（帰路にかくにんできたが)。ほどなく槍平の景色になってきたと思うと木陰の向こうに槍平小屋が見えた。

定員 80 名のこじんまりした小屋で昨日は満室で予約が取れず当初の予定を一日遅らせた経緯があったが今日は半数の 4～50 名程度の客で空いている。8 人個室を 6 人で利用。若い Ishi さんはテント泊。65 歳以上のオールドボーイには特典ありで、500 円（缶ビール代相当）の利用優待券を三名の該当者がゲットする。

食事前にロビーのテーブルでささやかなに前夜祭。疲れもあり 7 時過ぎに早々と就寝する。

ロマンチスト達は夜中 2 時頃に起きて満天の星空を仰ぎ星座観察を楽しんでいたようだが、夜中に起きて、星空を仰ぎ感動する情熱は残念ながら何時の頃からか消え失せている。

（2）9 月 22 日

4：30 起床、朝食を摂らず 5：15 出発。今日も快晴であるが朝方は若干風があり一枚上着を重ねて歩きだす。本日の標高差（槍ケ岳山荘まで）約 1000 メートル強、コースタイム 5 時間。

標高を上げるにつれて後方に焼岳の岩塊な山稜が、その向こうに対照的にやさしい乗鞍岳の稜線がみえてくる。やがて、景色が変わり後方に、特徴的な笠が岳のピークと抜戸岳、弓折岳への稜線が朝日に照らされて輝きだす。森林限界が近づく辺り、飛騨沢から尾根筋へ延びる斜面の紅葉が目を引く。あと 10 日ばかりすれば丁度見頃になるだろうか。しかし、その時々の色合いの微妙な濃淡も登山者の目を楽しませてくれる。そして、所々にダケカンバの白い幹がアクセントの役割を演出している。千丈沢乗越の分岐辺りから登山道は険しくガレ場のジグザク道になる。斜面の景観はやさしい草紅葉とハエマツの模様に変わり、更に上部のガレ場と岩塊の稜線の上に真青な空が開けている。槍が岳山荘の建物の一部が見えてくる。しかしここが最後の頑張りどころで顎が出てゼイゼイ息が荒げてくる。やっとのことで、飛騨乗越の稜線にでると待望の槍の穂先が眼前に屹立していてまぶしい。槍沢の向うに端正な常念岳が、眼下には殺生小屋が、そして東鎌の稜線から、大天井岳から燕岳の稜線など素晴らしい景色のオンパレードだ。水分を摂りしばしこの感激をゆっくり味わう。皆の頑張りで予定時刻より早く、約 5 時間の 10：10 に槍が岳山荘に着く。混雑している程ではないがやはり大勢の登山者だ。しかも、若者が圧倒的に多い。我がグループの年恰好の登山者には中々出会わない。そして、一般登山者でもヘルメット着用者が多くなっているのには驚きでる。手続きをして、不要な荷物を部屋に置き穂先に登る準備をする。今夜も個室で 8 人部屋（上下ベット）を 6 人で利用する幸運に。

聞くところによると、昨日の昼ごろは穂先に登るのに渋滞がひどく 3時間もかかったらしい。小屋に着いた時も何カ所か渋滞個所も散見されたが、我々が登りだす頃は渋滞もなく登り下り各々30 分で十分だった。

待望の日本百名山の穂先の頂点に立ったのは 11：30 だった。何という素晴らしい景色か。穂先の高度感（130m）が景色を一段と引きてたてている。頂上はそんなに広くはない

が混雑していることはなく我々を含めて約 15 名ばかり登山者がいるだけだ。余裕を持って横断幕を掲げて記念撮影する。
横断幕は山仲間のイラストレタリング技能士の Seki さんが特別に丹精込めて今日のために作成下さった本物でピカイチだ。ギャラリーの登山者もそれを見てその立派さに溜息をつきながら百名山の登頂記念に拍手を送って下さった。
感激の余韻に滴たりながら慎重に岩塊を下る。
祝宴は今夜の楽しみにして、小屋前のテラスのテーブルにてビールで乾杯して昼食を摂る。今日の予定はすべて終了。時刻は 13 時。ほろ酔い気分とまではいかないがいい気分だ。夕食の 5：30 まで個室で昼寝の贅沢三昧となる。

小屋の粋な計らいで、百名山登頂記念の祝宴に相応しい特別のコンパートメントを提供していただいた。テント組の Ishi さんも加わり打上げの祝宴を、横断幕を壁に貼りその場の雰囲気を盛り上げる。片隅には生花も飾ってある。前会長の Ume さんからの宮沢賢治の「雨にも負けず風にも負けず」の詩をアレンジした祝福のメッツセイジが届いていたのでそれを朗読して盛り上がったところで、奈良から大事に運んできたフランスワインのシャブレで乾杯。持参の美味しいチーズ、サラミソーセイジ、その他をつまみながら登頂の余韻を楽しむ。今日はワインでいこうとのことで「槍が岳」銘柄の辛口白ワインを一本抜き、徐々に酔いがまわり祝宴が盛り上がる。今夜もロマンチスト達は夜中に満天の星を眺めることをわすれなかったようだった。

（3）9 月 23 日

日の出を待って 5：30 に出発するが、東の空は厚い雲海に阻まれ見られなかった。下りコースは一部西鎌の稜線を千丈乗越の分岐までとりその後は昨日と同じコースで下山することにする。今日も快晴で三日間、めぐまれた気象条件であったことに一杯の感謝だ。
新穂高温泉に到着すると、日帰り温泉宿のお迎えの車に乗り旅館へ。かけ流しの源泉に浸かり三日間の汗を洗い流しサッパリした気分で豪勢な昼食の打上げとした。
名古屋組とここでお別れして帰路についた。途中、事故渋滞で予定より 1.5 時間ほど遅くなったが 8 時過ぎに無事に帰宅。
（文責：清岡）